



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2023年2月21日発行 第58号

2月も半ばを過ぎると春の兆しが見え始める季節です。しかし、冬と春のような季節が急に変わることは自然界ではなく、三寒四温を経ながら少しずつ移り変わっていくのが自然の摂理でしょうか…。とはいっても急に牙をむく時もあります。トルコとシリアの国境付近で発生した地震の破壊力は凄まじいものがあります。一方では、この地震の災害は建築法の違反などの人災との見方もありますが、自然を甘く見ているとこのような災害はいつまで経っても無くならないような気がします。日本でも最近の出来事として忘れるわけにはいかない災害があったばかりです…。

◎ コンサートを成功させるためには！

2月11日に開催した「ニューイヤーコンサート」は大成功裏に終わることが出来ました。プログラム内容が「ニューイヤーコンサート」にふさわしい「ワルツ」や「ポルカ」を中心に編成されていたこともあり、聴きなれた各曲に親しみを感じられたことと思います。また、オペレッタ風に演出された場面がたくさん盛り込まれ、ユーモアあふれる上演に会場が笑いに包まれるなど和やかな雰囲気のコサートとなりました。

今回のコンサートに「ワルツ」や「ポルカ」を取りあげた理由は、ドイツで40年以上コンサートマスターとして活躍されている“高畑壮平”氏をゲストコンサートマスターとして招いた事でした。「ワルツ」や「ポルカ」のリズム感は、そう表現できるものではなく、ヨーロッパの民族音楽ですので、うわべだけの感覚ではしっくりとこないのが現実です。その点で、高畑氏はヨーロッパの風土を40年以上にわたり生活感覚として肌で感じられた方なので、「ワルツ」や「ポルカ」はお手の物で、チェンバーオーケストラのメンバーもヨーロッパの風を間近に感じられたことと思います。そのお陰で、本番のステージもまるでヨーロッパのコンサートホールで聴いているような錯覚を覚えるほどでした。

アンケート結果からも「このようなコンサートなら毎回来たい」「演奏者のレベルが高く素晴らしい」「指揮者中井氏のMCも分かりやすい」など、大好評を得ることが出来ました。

今回のようなコンサートを成功させるためには、どのようなプロセスを経ているのか少し舞台裏を覗いてみることにします。

- ◆コンサートそのものの立案は、国の補助金申請の関係から前年度の秋口から始まります。およそ1年前には、骨格が決まっています。勿論、本番までには修正、補充などの変更があるのは付き物です。
- ◆コンサート会場の予約をします。(本番当日とリハーサル期日)



コンサートの始まり！



コンサートマスター



ツロも充実！



エンディング



指揮者体験

裏面へ

- ◆コンサートの大小によりますが、本番の1年～4か月前ぐらいに演奏曲目が、芸術監督の監修のもと決定されます。
- ◆演奏曲目の決定と同時に楽譜の有無を確認することになります。演奏したい曲があったとしても、今回の様なチェンバーオーケストラ（室内管弦楽団）用の楽譜に編曲を余儀なくされるのです。編曲によっては、音楽そのものに影響が及ぶために慎重にならざるを得ません…。この弊害を乗り越えるために、昨年末、「京都フィルハーモニー室内合奏団」と「出雲フィルハーモニー交響楽団」との間でパートナーシップ提携が交わされました。この提携により「モノの交流（楽譜の貸借）」「ひとの交流（奏者の派遣）」「企画運営の提携」が可能となったのです。この提携のおかげで、京都フィルは、数千曲にも及ぶ楽譜を在庫として抱えているため、今回のニューイヤーコンサートのプログラム編成はスムーズに行えたといえます。
- ◆演奏プログラムが決まると奏者の出演依頼が始まります。チェンバーオーケストラメンバー（地元アーティスト）を中心に、全国各地のアーティストにも呼びかけます。
- ◆リハーサルやゲネプロの日程を調整します。同時に宿泊先の手配もします。
- ◆コンサートのPRとして、ポスター・チラシの作成、関係者への案内活動を開始します。
- ◆本番当日のステージ配置図を検討します。プログラムの作成もします。
- ◆それぞれの奏者が練習してきたことを合わせるのは、本番前のリハーサルと当日のゲネプロのみです。この2～3日で仕上げていくのは、指揮者の腕の見せ所です。その指揮者がフルに活躍できるように、コンサートマスターとのコンビネーションが不可欠になってくるといえます。
- ◆本番当日は、受付準備やプログラムの挟み込み、張り紙や会場案内など観客の皆様が安心して心地良くコンサートを鑑賞できるよう気配りを怠りません。
- ◆本番が終われば、各種支払い事務、チケット清算と回収、アンケートの集計など様々な事務処理があります。



調印式の様子！

このように、一つの公演を行うにも膨大な事務作業があることが分かります。すべての事を網羅したわけではありませんが、華やかな演奏の裏には、たくさんの人々の働きがあって成り立っていることが理解できます。

◎ ロビーコンサート&バレンタインサロンコンサートを開催！

コンサートマスターの“高畑壮平”氏が滞在中に2つのミニコンサート企画しました。3年ぶりに市役所本庁で開催されたロビーコンサートには、多くの観客と市役所職員の皆様の参加があり、映画音楽を中心に豊かなバイオリンの音色を堪能していただきました。

また、当財団職員やアカデミー関係者の皆様に、“高畑壮平”氏の素晴らしさを身近に感じていただくためにバレンタインサロンコンサートを開催しました。クラシックから映画音楽と幅広いジャンルの作品と共に、高畑氏の気持ちの入った豊かな響きで来場者の心を虜にし、拍手が鳴りやまぬほどでした。

高畑氏の行動力がとても印象に残る1週間となりました。感謝！！



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】